

## 研修会報告

令和6年2月10日

文責： 加賀 淑子

研修会テーマ「 苦手を克服しよう！～リンパ球篇～ 」

開催日時 令和6年2月3日（土） 14：00 ～ 16：30

会場 Zoomを用いたWeb開催

司会 仙台市立病院 千葉 勇希

東北大学病院 大久保 礼由

生涯教育点数 20点

参加者 会員参加者 93名(実務委員・講師含む) 入会申請中会員 0名 非会員 1名

賛助会員 0名 学生 0名

合計 94名

講演1 「リンパ球の見方」

獨協医科大学病院 臨床検査センター 新保 敬技師

講演2 「症例検討」

症例1：東北医科薬科大学若林病院 検査部 加賀 淑子技師

症例2：東北医科薬科大学病院 検査部 大場 祐輔技師

16：30 終了

### 内容

今回の血液部門研修会は「苦手を克服しよう！～リンパ球篇～」をテーマとして開催し、苦手意識の強いリンパ球・反応性リンパ球・腫瘍性リンパ球の鑑別点を学び、身につけることを目的とした。

講演1は血液像染色の基礎から始まり、初心者が苦手とする単球とリンパ球の鑑別点、ある程度の経験を有する技師も苦手とする反応性リンパ球と腫瘍性リンパ球の鑑別点を多くの細胞画像を例に分かりやすくお話し頂いた。細胞の鑑別には細胞の特徴を言語化することが非常に重要であると、講義があった。研修会終了後のアンケートにて多くの聴講者から、『細胞の特徴を言語化したことで、自分が理解できていない部分や苦手になっている部分が分かった。』などの声が寄せられた。最後に、現在進行している“異型リンパ球の標準化プロジェクト”に関する内容を講演頂いた。

講演2は講演1で学んだ細胞鑑別点の実践を目的に、症例検討を2症例行った。症例検討は参加者の中から回答に協力いただく方を選出し、ディスカッション形式で進行した。検査データから病態を推測し、抹消血液像・骨髄像の形態からある程度の疾患を想定し、鑑別

に必要な検査を考え、結果を確認、確定診断の説明と、日常ルーチンの流れに沿った内容とした。通常、末梢血液像のみで骨髄像を観察する機会が少ない参加者からは、『疾患を確定するまでの追加検査やその内容はとても勉強になった。』と感想が寄せられた。

参加者は皆、最後まで熱心に聴講していた。また、本研修会は全国から参加可のため、北日本支部管内の各道県や愛知県、福岡県からも参加者が見られた。今後も宮城県臨床検査技師会員含め参加者のために楽しく学べる研修会企画し、参加者の増加につなげたい。今回のアンケート集計結果を、今後の研修会企画に反映させていきたい。